

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	16-070	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol Use and Breast Cancer Survival among Participants in the Women's Health Initiative. 飲酒と乳がん生存率の関連について		
執筆者		
Lowry SJ, Kapphahn K, Chlebowski R, Li CI.		
掲載誌		
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2016 Aug;25(8):1268-73. doi: 10.1158/1055-9965.EPI-16-0151.		
キーワード	PMID	
乳がん 生存率 飲酒	PMID:27197280	
要 旨		
目的： アルコールは中等量でも乳がんの発症リスクを上昇させる。中等量飲酒と乳がん患者の生存率の関連を明かにする。		
方法： Women's Health Initiative observational study における乳がん患者(n = 7,835)を対象にして、乳がんの診断前後の飲酒量、診断後の飲酒量の変化と乳がん死亡ハザード HR (95%信頼区間(95%CI)を Cox 比例ハザードモデルにて算出した。		
結果： 乳がん診断前の飲酒は乳がん死亡と総死亡のリスクをそれぞれ 24% (95% CI, 0.56-1.04) ,26% (95% CI, 0.61-0.89) 減少していたが、統計的に有意な関連ではなかった。エストロゲン受容体(ER)の有無により結果は多少異なり、ER(-)では乳がん死亡リスクは49% (95% CI, 0.31-0.83)減少したが、ER(+) ではこのような関連を認めなかった (HR = 0.97; 95% CI, 0.31-1.54)。乳がん診断後の飲酒量や飲酒量の変化は乳がん死亡とも総死亡とも関連を認めなかった。		
結論： 乳がん診断前、診断後の飲酒量は乳がん死亡とも総死亡とも関連を認めなかった。		